

第13回新生匠瑳戦略会議 会議録（概要版）

開催日時：平成24年1月18日（水）

午後7時00分～8時55分

開催場所：八日市場ドーム選手控室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃、渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、越川八代枝、鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（13人／名簿順）

欠席委員：（団体推薦者）安藤建子、橋場永尚

（2人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

【 議 事 】

（1）提案書（中間報告）について

- ・手法として会議録を整理してまとめていく方法があるが、会議録そのもので終わらせるのではなく、そこを土台としてどんどん膨らませていくことが中間報告のイメージに近いと思う。
- ・検討課題にふれる中で、新しい公共や市民協働という枠組みを使いながら解決方法を目指していき、できるだけ匠瑳市の実態に即したかたちで問題解決を図りたい。
- ・匠瑳市の実態として、新しい公共や市民協働を考えていくのはかなり難しいことだが、なるべく市がそういう方向に動くような、まさに戦略を持った報告書にしたい。
- ・戦略会議で話し合ってきたことは、分析的な議論ではなく、極めて感覚的な議論なので、素直に感覚的な議論だけでとりまとめるべきなのではないか。
- ・今まで感覚的な議論しかしてきていないが、そこに科学的なデータも加えて一歩進んだところまで出した方が、報告書としてはいいのではないか。
- ・中間報告の段階では提案力や説得力というよりも、まずは今までやってきた会議の中身を整理しなければ、前進できないと思う。
- ・この報告書は誰のためにどういう趣旨で作成するものなのか。市民のためか、それとももっと広いとらえかたをするのか、それによって報告書の書き方も変わってくるのではないか。
- ・例えば、市がソーサマンを使ってプロモーションしようとするときに、同時にキャ

ラクタービジネスとしても成立させるためには、市民が知恵と汗と涙をしぼってビジネスをやること、そこに匠瑳という名前をかぶせて商機を探すこと、ここまでやって初めて市民協働と言えるのだと思う。

- 市長の考えとしては、懸案事項に関することは戦略会議に依頼しているということになっているので、少なくとも戦略会議からの報告を待って、そこから市長が政策決定をしていくことになると思う。よって、戦略会議で出されたいくつかのポイント、アイデアは中間報告で提示する必要がある。
- 市の計画書や報告書にもいろいろなデータが蓄積されているが、それは不必要とまでは言わないまでも、二次的なものとして参考程度に添付するぐらいがいいのではないか。
- 旧飯高小学校については、県教育庁からの申入れがあるが、ここで議論されてきた内容は、申入れがあるからといって里山保全などの市民活動がなくなってしまうわけではないので、中間報告に盛り込むべきである。
- 人口減少と同じ考えで、海岸侵食も徐々に進んでいくことを前提としたまちづくりを考えていかなければならない。
- J T跡地については、市民のために何かを造るという選択肢だけではないという方向性が、戦略会議の結論だと言えるのではないか。また、市有地だからといって、公共性の高いものにしか利用できないという限定した考えはやめるべきである。
- 中間報告のイメージとして、市全体のあり方やまちづくりの仕組みを考えていく中で懸案事項を位置付け、提言としてまとめていきたいと思う。